強者の戦略

【ちょっと難しい問題でした】

こんにちは、いい天気が続いていましたね。花粉で鼻がぐずぐずしていましたが、外に出て桜を見たりするの好きなんですよね。日本人だなあ…。それにしてもくしゃみが止まらない。皆さんもお気をつけください。暖かいので生徒も授業中眠そうな人が多かったですね。うっかり寝過ぎないようにしましょう。

さて、今回の問題はいかがだったでしょうか。1994 年に、魏晋南北朝時代の問題が出題されていたことがありました。あの問題の“宗教文化”の部分が今回と共通するところです。また見ておいてくださいね。魏晋南北朝は制度など政治の中身以上に民族や文化について理解できていないといけません。文化史はついおろそかになってしまうところですが、教科書レベルでいいので今のうちから王朝ごと、時代ごとに整理しておきましょう。京都大学の世界史は、以前は過去に出題されたことを避けているような感じでしたが、ここ２年は、過去の内容も理解しておいたほうがいい問題でした。京都大学は幅広い範囲の出題がありますので、様々な問題に触れる必要がありますが、できるだけ早めに通史に学習をして、過去問にもできるだけ早くとりかかりたいですね。

《解説》

解説、というよりワンポイントアドバイスです。

「仏教・道教が中国に普及し始めた魏晋南北朝時代における仏教・道教の発展および両者が当時の中国の政治・社会・文化に与えた影響」という問題ですが、まずは時代を確認しておきたいと思います。

時代は魏晋南北朝時代。だいたい184年の黄巾の乱から隋による統一までをさすことが一般的です。

そしてまず問われていることは

「仏教・道教の発展」

仏教は１世紀戦後に中国に伝わったとされますが、本格的に浸透していくのはこの戦乱の時期からです。４世紀からは西域の僧である仏図澄や鳩摩羅什の活躍、そして東晋の法顕がインドに行くなど、活躍する僧が思い浮かぶところですね。で、気づいた人がいると思いますが、やはり南北での特徴に違いがありますので、別に考えた方がいいでしょう。

道教は、まず黄巾の乱を起こした太平道や、四川の五斗米道が源流とされていることを思い浮かべないといけません。そして北魏の寇謙之による大成がまず必要ですね。かなり細かなことですが南朝でも結社ができています。

そして次に問われていることは

「両者が当時の中国の政治・社会・文化に与えた影響」です。だから発展ばかりを考えてはいけません。実はここが難しいところですが、あえて解説を詳しくすることはやめておきます。ヒントは載せておきますので、いろいろ考えてみてください。

私が実際に解答例をつくったとき、以下のように表をつくりました。

	発　展	政治への影響	社会への影響	文化への影響
仏教				
道教				

ヒントです。
まず「政治への影響」ですから、どちらも国が保護したのか弾圧したのか、などが想定できるでしょう。
「社会への影響」ですから、一般社会にどう受け入れられたとか、どの層に受容されたのか、などがかけそうですね。
「文化への影響」だったら、お寺や仏像がつくられたとか、学問が発展するとか、想像がつきそうです。

ちゃんと調べると、情報量が結構多くてまとめるのが大変になると思います。教科書や用語集などを参考にしながら、表を完成させていきましょう。

《解答例》
仏教は４世紀以降社会に根付き、華北では亀茲出身の仏図澄や鳩摩羅什、江南ではグプタ朝を訪れた東晋の法顕らにより布教や仏典漢訳が行われ、また諸宗派も成立した。華北ではその鎮護国家的性格から国の保護をうけ庶民中心に浸透、敦煌・雲崗・龍門など石窟寺院が建造された。江南では個人的信仰の性格が強く、主に貴族の教養として広がり建康には仏寺が林立した。道教は仏教普及に刺激され、後漢末の太平道や五斗米道を源流に民間信仰や神仙思想、道家の学説を取り入れた寇謙之によって大成され、新天師道として教団が組織された。北魏太武帝がこれを国教とし仏教を弾圧したが、現世利益を求める民衆に浸透、その影響で医学や服薬法も発達した。(３００字)